



にじいろ通信

令和 8年 8月号

キッズケア青い鳥のWEB
予約と事前登録はこちら



夏の定番！手足口病が流行

熱中症警戒アラートが発令される厳しい暑さが連日続いています。

この酷暑のなか地震で被災された熊本の皆様には心からお見舞い申し上げます。

7月は夏の定番！手足口病が流行しました。昨年は年間を通じて手足口病の流行はなく、一昨年は秋に流行するなど、新型コロナウイルス感染症が発生してから、手足口病の流行時期が変化していましたが、今年は例年通り真夏の流行となったようです。手足口病は夏風邪の一つです。夏風邪とはエンテロウイルスという病原体（60種類以上あります）の感染症の総称で、咳や鼻水はなく高熱が特徴で、夏場に流行することからこのように呼ばれます。

今年の手足口病の特徴は、年齢が2歳以下の小さいお子さんに集中していること、発疹が手のひらや足の裏だけでなく、腕、膝、ふともも、おしりなど広範囲に認められることです。

感染経路は飛沫、接触、経糞のいずれもあり、糞便からは2～4週間ウイルスが排泄され続けます。感染しても無症状で終わるお子さんもいることから、保育所など集団生活の場で流行を防ぐことは困難です。感染対策としては、タオル、食器の共用は避ける、トイレやオムツ交換時に手洗いを励行することが大切です。

子どもの「虫刺され」

「虫刺され」とは、蚊、ブヨ、ノミなどに刺されたことによる皮膚の炎症で、子どもは大人より反応が強く出やすいのが特徴です。手の甲の虫刺されが肘まで赤く腫れあがったり、刺された部位が水ぶくれになったりすることもあります。対策は以下の通りです。

- ◆まずは冷たいタオルや保冷剤で冷やしましょう。
- ◆早めにステロイド外用剤を塗るようにしましょう。
- ◆市販の痒み止めを塗ったり、爪を切ったりして掻かせない工夫をしましょう。引っ掻くことでとびひになって治療が長引くことがあります。

7月の感染症情報

手足口病やヘルパンギーナなど高熱がでる夏風邪が流行の主体でした。先月に引き続いて、ヒトメタ、パラインフルエンザ、マイコプラズマ、新型コロナウイルスの持続的な発生がありました。また、水痘の散発的な発生がありました。

キッズケア青い鳥の
ブログはこちら



青い鳥を利用したお子様の様子などをブログで随時配信しています。
ぜひ上記のQRコードにアクセスしてみてください。



7月の利用状況

7月の利用延べ人数は140人、1日平均利用人数は6.4人でした。年齢別では、1歳児が55人で最も多く、次いで2歳児27人、4歳児16人の順でした。疾患別では、急性上気道炎が59人で最も多く、手足口病31人、ヒトメタニューモウイルス感染症24人の順でした。

水痘の入室がありました。水痘ワクチンを1回接種していましたが、発症しています。水痘ワクチンは必ず2回接種をするようにしてください。